ユネスコ群馬 No. 81

群馬県ユネスコ連絡協議会

会長　樋口　克己　　事務所　群馬県教育委員会生涯学習課　　https://gunma-unesco.com

つなげよう平和の心　広げようユネスコの輪

年頭のごあいさつ

群馬県ユネスコ連絡協議会
会長　樋口　克己

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大により、国内だけでなく、世界中で生活面から政治・経済に至るまで多方面に亘り被害を受けました。

2021年度は、ユネスコ活動もコロナ禍で大きな制約を受けましたが、様々なコロナ感染予防対策をしながら、事業を行って参りました。

現在は､総会で承認された本年度活動方針･事業計画･予算（案）に基づいて、活動を進めております。７月３日（土）に研修視察を、11月27日（土）に運営研修会兼事務局員研修会を開催しました。

今後１月27日（木）にユネスコスクール研修会、２月26日（土）に世界遺産研修会を実施いたします。

話しが変わりますが、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」（ＳＤＧｓ）では、国際社会が一丸となって取り組むべき目標が明示されました。その前文では「平和なくして持続可能な開発目標は達成できず、また、持続可能な開発なくして平和は実現できない」と謳っています。そして、2030年までに達成すべき17の目標が掲げられました。

私たちは、今後ともＳＤＧｓの目標の達成を目指し、持続可能な社会の実現のためにユネスコ活動を推進したいと思います。会員及び県民の皆様や関係団体・機関のご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

群馬県教育委員会
教育長　平田　郁美

明けましておめでとうございます。

群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様におかれましては、日ごろからユネスコ憲章の精神に基づき、共に生きる平和な社会の実現に向け、様々な活動に取り組まれていることに、心から敬意を表します。

さて、日本が国際連合教育科学文化機関（ＵＮＥＳＣＯ）に加盟してから70年が経過しました。長年にわたり活発な活動が継続されてきた陰には、各地域のユネスコ協会のそれぞれの活動や連携の積み重ねがあったことと存じます。今後、さらなる発展を目指し、その崇高な理念を伝えていただきたいと願っております。

また、群馬県ユネスコ連絡協議会の活動方針の一つに「持続可能な社会の構築を目指し、持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）の普及及び持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の達成に努める」とあります。本県も昨年、内閣府の「ＳＤＧｓ未来都市」に選定されました。コロナ禍で新たな生活様式が求められる中、ＳＤＧｓの取組は様々な課題解決への糸口と考えられます。教育においては、学びを保障するとともに、誰一人取り残さない個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指し、群馬の土壌とデジタルを掛け合わせることで、「群馬ならではの新しい学び」の実現を目指して参りたいと思います。

結びに､新しい年が平穏な一年となりますとともに、群馬県ユネスコ連絡協議会の御発展を御祈念申し上げまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

県ユ連主催事業

「研修視察」

中之条ユネスコ協会　会長　嶌村　真也

2021年７月３日（土）、中之条町ツインプラザ交流ホールにて開催された。新型コロナ感染の猛威の中、感染状況が谷間となった中での綱渡り実施であった。参加者は、各地区ユネスコ協会員31名である。

研修内容は、開催地に伝わる伝承文化を未来遺産としてご理解頂くことを研修視察のねらいに込めて、中之条町五反田字白久保に伝わる国指定重要無形民俗文化財「白久保のお茶講」の体験を研修の中核とした。

研修は２部構成で、はじめに模擬体験の前提として、お茶講の歴史的背景や特色を「中之条町歴史と民俗の博物館ミュゼ」館長の山口通喜氏から講話頂いた。

山口館長は、「お茶講」が２月24日の白久保天満宮の宵祭りの行事として古くから継承されてきた習俗で、鎌倉～室町時代に武士の間で盛んだった「闘茶」の流れを汲む民俗行事であって、起源不明ながらもお茶講と「闘茶」形式との共通性から北関東、特に吾妻だけに伝わる行事であることの特殊性を述べられた。

ついでお茶講体験へと進み、白久保お茶講保存会長の町田茂氏の差配により参加者全員によるお茶講の模擬体験が行われた。

行事のしくみは、甘茶・渋茶（煎茶）・チンピ（蜜柑の皮を干したもの）の粉末の調合割合を変えた４種のお茶（１の茶・２の茶・３の茶・客）を舌で味わい、秘密としたその種類を当てるというもの。参加者は、４種の見本の茶を舌で確かめて味と香りを覚え、続いて本番の飲茶を２回ずつ計７回（客は１回）行って、その度にお茶の種類を推測、回答し、正解が示された。

自身の推測の当否に一喜一憂しながら、いにしえのお茶講の模擬体験のひと時を楽しむ参加者の様子に、未来遺産としての伝統文化への理解の広がりが感じられた「研修視察」となった。

山口氏の講話

お茶講会場

賞品のアメを戴く

関ブロ大会

関ブロの序

「2021年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会in栃木」は、2021年（令和３）10月２日（土）13時、大会初オンラインにて開催。昨年度群馬県開催はコロナ禍で急遽中止されましたが、今年度はオンラインに予定変更し開催されました。参加者は個人、またはサテライトに集合し、予め送付されたＩＤ、パスワードまたはＵＲＬからZoomミーティングに参加し視聴しました。

足利歌舞伎（舞楽）の子ども達の美しい舞で幕を開けた後、挨拶、国内委員会報告、双日総合研究所相談員 多田幸雄氏による基調講演へと音声など多少のトラブルはありましたが、素晴らしい内容で会は進みました。この間、参加者には聞き取れずあきらめる者などＰＣ操作のトラブルもありました。

休憩後、14時30分から第１分科会：ＳＤＧｓ／ＥＳＤ・ユネスコスクール、第２分科会：平和の心・国際理解、第３分科会：世界遺産・世界寺子屋、第４分科会：ユネスコ活動の役割と広がり に分かれ再入室し分科会が始まりました。

ところで、対面発表を想定して準備をしてきたが、オンライン会議や講演に習熟していない発表者は新たな対応を迫られることになりました。

第２分科会の発表者、前橋ユネスコ協会須藤英雄氏の場合は…。

第２分科会の発表 ～足利にて事前収録～

前橋ユネスコ協会　須藤　英雄

2021年の関東ブロックユネスコ活動研究会は栃木で開催され、分科会の発表を担当しました。

発表内容は、第２分科会「平和の心･国際理解」の、「地方ユネスコ協会の国際交流事例・中国とインドネシアとの国際交流」です。中止になった前年度の大会資料を基に、過去の交流内容を確認し、写真を用意してパワーポイントで書き込みをしました。

今回発表の活動状況は40年以上も前から行っているものです。「設立30周年記念誌」「設立50周年記念誌」を参考に過去の活動を整理しました。

交流がスタートした頃の中心メンバーはすでに物故者が多く、改めて時代の変遷を経てきたことを感じました。そう考えると交流活動が「中国」「インドネシア」それぞれに今も続いていることに感慨深い想いがあります。

「運営研修会兼事務局員研修会」

館林ユネスコ協会　会長　大野　泰弘

令和３年11月27日（土）、館林ユネスコ協会が主管となり、群馬県ユネスコ連絡協議会の運営研修会兼事務局員研修会を開催いたしました。本研修会は、ユネスコ活動の課題等を情報交換することにより活動の充実を図ることを目的といたしました。その中でも、持続可能な社会をつくるために、地域の将来の担い手を育てる地域学習が重視されていることから、いくつかのユネスコ協会が取り組んでいる「絵で伝えよう　わたしの町のたからもの絵画展」など、地域学習を進めていくアイデアについて考えることで、活動の充実に繋げることが出来ればと目的を設定いたしました。

研究協議では、テーマを「わたしの町のたからもの」として、事前に各ユ協にご回答いただいたアンケートをもとに、特質した取り組みを発表していただきました。地域の「たからもの」を守り続ける取り組みや、各ユ協が行っている地域学習を知ることが出来ました。

その後は、館林市教育委員会文化振興課 市史編さんセンター所長の岡屋紀子様から「シビックプライド！日本遺産「里沼」講座」として、ご講演いただきました。館林市の「たからもの」である「里沼」について、市外の方にも知っていただく機会となり、改めて自分の町の「たからもの」を考えることが出来る時間となりました。

館林市の「里沼」が2019年５月に日本遺産に認定されてから２年半が過ぎ、シビックプライドとして、どんどん館林市民に定着しているように思います。市民組織も設立されました。しかし、こうした全市的な取り組みに、残念ながら館林ユネスコ協会は参加を呼びかけられませんでした。私たちは何も活動していないので当然の結果ですが、ＳＤＧｓにも関係する郷土の誇り、自然や歴史についてもっとかかわりを持つべきではないかと感じています。少しずつではありますが、私たちが出来るＳＤＧｓへの取り組みや、地域の将来の担い手を育てるための地域学習への取り組みを進めていきたいと思います。

「わたしの町のたからもの」に関する取り組みを共有

日本遺産「里沼」講演会

パワーポイントの入力ですが、パソコン対応が得意でないため苦労をしました。そんな中、新型コロナの猛威がオリンピックに合わせて拡大したことから、栃木大会はリモート開催となりました。発表も事前収録となり、説明の仕方を考え資料を作成いたしました。

作成した資料は、会長や役員に何回か内容を確認してもらい、大会事務局の足利市の開倫ユネスコ協会・本島様と相談して、事前に資料の送付をするとともに８月28日土曜日に事前収録に足利へ行きました。

事前収録当日は、天気が良く暑い日でした。阿久澤顧問の運転によって車で行きましたが、道路も混雑していなかったことからスムーズに現地に到着しました。

打ち合わせをして、初めに時間を測って緊張しながら練習しました。

事前収録の様子

次に、本番を撮りましたがカメラに向かって話をするため、より舞い上がってしまいました。また、話す時間を気にするあまり、対面なら質問される内容を入れるのですが、それが出来なかったことを反省しています。実際にご覧になった方には残念だったかもしれません。

私は今回の発表で、今までの交流内容の確認が出来たこと、そして、今回作成した資料を基に、出前講座向け資料を作成することが出来ました。コロナ終息後のこれからの交流や活動が楽しみです。

参加者の声

オンライン開催について

・遠方から参加可能・時間の節約・ＰＣ不得手な人へのサテライト設置は良い・偲ばれる事務局のご苦労・想定外の機器トラブル

オープニング・基調講演

・MOTTAINAI、吾唯足知、何事も中庸が肝心

分　科　会

第１ 佐野日大は内容良く、適正音声だが時間大幅超過。次の発表者は聞き取れず残念。第２ 事前収録のため音量、時間も適正。国際交流の継続の困難さと、歴史文化財の保護継承の大切さを学ぶ。第３ ハガキと切手の使用減に寺子屋運動の未来を憂う。など…。

≪要　望≫

・事前資料の配布・質問の時間の設定、良い内容なので記録データを配信して欲しい。

各ユネスコ協会だより

桐生ユネスコ協会

桐生ユネスコの再生を目指して

会長　田中 一枝

桐生ユネスコ協会の会長を本年３月に引き継がせて頂いてから、早くも今年も終わろうとしています。

新型コロナウイルスの、かつて経験したことのない世界中での戦いは、桐生ユネスコにおいても５月の県ユ連総会開催の中止をはじめ、例会の予定はことごとく中止という辛い一年でした。

しかし乍ら、本年度初めには会員の高齢化その他の事情により20名にまで減少してしまった桐生ユ協の組織を立て直し、盤石なものにする為には、まず50から60名の会員の確保が必要かと、役員共々会員増強に力を注ぎ、現在60名までになりました。今後はまず会員間にユネスコ理念の普及を図るとともに、魅力ある行事をともに考え、実行し、次代の桐生ユ協を担う人材の出現を図らなければと、責任を痛感しております。

例会は最低でも２ヶ月に一度（コロナの為中断あり）は開催することとし、第一回の卓話をネパール、パルパの山村で、井戸や学校を村人たちと作り、村人から『OKバジ（何でもOK、OKと言っているおじいさん)』と言われている垣見一雅氏の活動を支援する会の富澤会長が奇しくも桐生の身近におり、講演をお願いしました。故・中村拓さんにも似たOKバジの生き方に出席した会員は大きな感銘を頂きました。

例会で講話をする“OK バジを支援する会”の富澤会長

又、入会時、新会員に決まって聞かれるのは、ユネスコって何ですか？との問い。私自身、50年近い会員歴の中で、答えられるのは、戦後間もない1946年、ユネスコ憲章の“戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない”その言葉に尽きるのかと存じます。

民間ユネスコ創立は、戦争によって人的な大きな禍根を遺した実情から生まれたものではないでしょうか。

あれから76年、無責任な人間の豊かさがもたらした地球温暖化による気候変動は、動植物はもちろんのこと、地球生命そのものの悲鳴に近い地球破壊の危機を感じます。

“心の平和”にとどまらず、私達はこれから何をなすべきか、真剣に取り組む時に来ていると存じます。

太田ユネスコ協会

コロナ禍２年目の活動の工夫

会長　中村　利光

太田ユネスコ協会は、市長・副市長を始め、議長を含む市議会議員全員、教育長を含む教育委員全員、市内小・中・高等・特別支援学校の校長・ＰＴＡ会長全員、幼稚園長全員、保育園連絡協議会、医師会116名、法人・企業、市民有志など、300名ほどの会員で構成されています。そして、園児・児童・生徒の健全育成や国際化に視点を当てながら、市の多文化共生社会を踏まえ、ＳＤＧｓの達成やＥＳＤの推進に寄与すべく様々な活動を行っています。

主な事業は中学生対象のユネスコイングリッシュスクール、小学生のユネスコ国際理解バス、園児から中学生の諸外国交換ユネスコ児童生徒作品展、高校生の太田市近接高校ユネスコ弁論大会、小・中学校の出前授業、ユネスコ新聞の発行です。どの事業も健全育成や国際化へ貢献してきましたが、今年度は健康・安全を配慮し、総会は書面開催、国際理解バス・イングリッシュスクール・弁論大会は中止としました。作品展は作品募集を行い、書や絵など862点の出品がありました。学習文化センターでの展示は見送りましたが、賞状や賞品を授与し賞賛の機会を提供することができました。

世界では貧困・紛争などで１億2,100万人の子どもが学ぶことができず、コロナ禍でさらに深刻になっています。本協会は28年に渡って世界寺子屋運動に参加し、募金を送っています。昨年度はコロナ禍のため書きそんじハガキ回収を重点事業とし、多くの学校にご協力いただき、2,879枚（151,909円相当の募金）が集まりました。コロナ禍で寺子屋の果たす役割は益々重要になっていて、学校のご支援に感謝申し上げますとともに、今年度も積極的に取り組んでいます。

両毛地区のユネスコ協会７団体（太田・大泉・桐生・館林・足利・開倫・佐野）は、長年に渡り県境を越え情報交換を行っています。今年度はホストユ協として、両毛地区ユネスコ懇話会の開催に取り組んでいます。コロナ終息後の活動が一層活性化する

よう、成果と課題を踏まえ事業計画の改善・充実を図りたいと思います。

前橋ユネスコ協会

２年ぶりの前橋ユネスコ協会絵画展

理事　女屋　光明

前橋ユネスコ協会では、令和３年９月12日、「私の住みたい夢のまち」絵画展の審査会を前橋市中央公民館「元気21」で行いました。前橋市内の小中学校の児童・生徒を対象に毎年行っていましたが、新型コロナ感染症拡大の影響で、令和２年度は中止となり、２年ぶりの開催となりました。

10回目を迎える今年は、693作品（小学生510作品、中学生183作品）の応募があり、絵画展には、特別賞、金賞をはじめ100作品が選出されました。

特別賞には、①前橋ユネスコ協会長賞、②前橋西ロータリークラブ会長賞、③前橋東ロータリークラブ会長賞、④群馬日野自動車賞、⑤前橋商工会議所会頭賞、⑥国際ソロプチミスト前橋賞、⑦前橋市教育長賞の７つがあります。

コロナ禍の中で募集したため、今年の応募作品は例年に比べ少なかったのですが、レベルは非常に高く、どの作品が入賞してもおかしくないほどの出来栄えでした。そのため、審査は難航しました。

会場に広げられた数百点の作品は壮観でした。絵の一枚一枚から楽しそうな笑い声や歌声が流れてくるようでした。

審査員にとっては、年に１度、若い才能に最初に出会う至福のときでもあります。しかし、楽しみながらも、汗びっしょりになって絵画の一枚一枚と真剣に向き合っていました。

最終的に選ばれた作品100点は特に秀逸で、それらが一堂に展示された様子はまさに壮観といえるものでした。

最後に、応募してくれた小中学生の皆さん、指導してくださった保護者及び学校の先生、審査にご協力していただいた先生方、裏方としてご苦労頂きました教育委員会事務局の先生に改めてお礼を申し上げます。

伊勢崎ユネスコ協会

令和３年度の活動

会長　設楽　孝吉

令和３年度の行事は４月に第１回理事会を開催し事業計画、予算案及び総会開催日を決め、ユネスコ活動を始めた直後コロナ禍の影響を受け、活動の基本である理事会及び総会が開けずにいました。

そこで、前年度に理事会にて承認されている行事不履行のための余剰金を、ＳＤＧｓ実践校の市内２校へ助成しました。

先ず、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校。同校は現在ユネスコスクールに加盟申請中であり、活動内容は身近な事に目を向け生徒自らが課題設定し、解決に向けて情報収集、整理・分析し周囲の人と意見交換・協働しながら探求、提案を行なっています。

助成金を四ツ葉学園田村校長へ（右：設楽会長）

主な実践は、フードドライブ（家庭で余っている食べ物を学校、地域、職場などに持ちより、それらをまとめて地域の福祉施設や団体等に寄付する活動）また、エシカル消費（地球環境や人、社会、地域に配慮した考え方に基づく消費）また、各家庭から調理をした際に廃棄される野菜の皮の部分などを持ち寄り染物をする体験を通して、ゴミを減らしたり活用したりする方法を具体的に学んでいます。

次に、伊勢崎市立赤堀東小学校は平成12年に赤堀小学校より分離独立。開校以来21年児童が日常的に自然と触れ合える場所の提供を目指し、更地の状態から地域の方や保護者の支援を得てビオトープ（動物や植物が安定して生活できる生息空間）を作り、毎年整備を重ねてきました。授業では、主に３年生がビオトープ学習で観察を行い、生き物や環境への関心を高める事で、水位変動や特定の動植物の増減や異常に気付けるようにしています。本校は俳句作りに取り組み地元の新聞に積極的に投稿。ビオトープへの関心を示す句も多いです。

我が伊ユ協も今年度の事業として子ども作品展を令和４年２月8日から10日まで、世界遺産研修会を２月26日（土）に開催を予定しています。

色々と困難な事に直面しますが乗り越えていきたいと思います。

高崎ユネスコ協会

ユネスコ力の発露
～新たな活動にトライ！～

会長　串田　昭光

コロナ禍２年目、50周年記念行事で培ったユネスコ力の発露を糧に月例理事会で企画や運営、感染症対策、健康管理などについて協議し粛々と活動しました。

そのことは、会員相互にとってユネスコ精神理解の場となり、総意で新たな活動にトライする原動力となりました。

以下は、その概要です。

１、国際理解展示会（群テレ放映）

（１）趣旨；「広げよう平和の心　～ＳＤＧｓを通して国際理解を考えよう～」のテーマ達成に向け、会員が在住や訪問した国で体験した事柄を発信する。

（２）日時；令和３年10月30日(土)
10：00～15：00

（３）対象；小中学生、市民

（４）内容；ユネスコスクールの取組、会員15名が在住や研修で訪れた五大陸にまたがる世界30ヶ国の地域で体験した歴史、文化などの発信でした。具体的には、ユネスコスクールとしてＳＤＧｓに取組む六郷小の様子、ＵＫの実状報告、インカ遺物・インドネシア民芸品展示、アルパ演奏など

２、世界の記憶上野三碑巡り（参加者少数で未実施）

（１）趣旨；上野三碑の見学や状況を聞くことにより身近な地域の文化財に関心や理解を深める。

（２）日時；令和３年10月17日(日)
９：00～15：30

（３）対象；小学校５．６年、中学生、特別支援学校中等部生（30名）

（４）内容；会員、高経大生、高商大生ボランティアが山上碑、多胡碑、金井沢碑について解説する。

３、“ＳＤＧｓ”クリアファイルの作成・啓発

（１）趣旨；脱プラスティックとして紙素材のクリアファイルに高崎ユネスコ協会のロゴマークなどをアレンジ印刷。

（２）内容；随時、参加者や関係者に手渡すことを通してＳＤＧｓ活動の一助とする。

以上にかかわった会員の心根は、高ユ協の基軸である青少年の健全育成、ひいては「持続可能な社会の実現に向けた担い手を育むこと」「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の実現に貢献すること」にありました。

それにつけてもこうした状況下での会員はもとより、防犯・青少年課、小中特別支援学校長会、ＰＴＡ連合会などの関係機関や関係者の理解や力強い支援、協力は励みとなりました。心より感謝と御礼を申し上げます。

富岡ユネスコ協会

創立50周年

会長　矢野　英司

令和３年11月20日に富岡製糸場「西置繭所」にて富岡ユネスコ協会創立50周年記念式典を開催させて頂きました。

この記念すべき50年という節目の年を迎える事が出来ましたのも、一重に歴代会長をはじめとする役員並びに会員の皆様、関係者の皆様のご尽力の賜であり、心より感謝申し上げます。

さて、約２年前に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで当たり前と思っていた人との出会いや語らいの場が制限を余儀なくされました。また苦労して企画・準備した行事やイベントなどの多くが中止や延期をせざるを得なくなりました。しかし、私たちはコロナ禍でもできる活動に重点を置き、世界寺子屋運動の一環として、書き間違いや古いなどの理由で投函されなかった未使用ハガキを回収する、書きそんじハガキキャンペーンを実施、また、市内小中学校の児童生徒の皆様に、ユネスコ活動や世界遺産について学習してきたことを作文で表現してもらう、ユネスコ活動普及啓発作文募集事業を実施して参りました。

私たちの活動は、地道ながらもたゆまず継続し、ユネスコの精神である「教育、科学、文化」の普及を通じて国際交流や国際理解を進め世界平和の実現に貢献すること、そして芸術文化活動を通じて地域文化の発展に貢献することを目指しています。今日まで築き上げられてきた協会の良き伝統を受け継ぐとともに、デジタル技術も活用しながら、会員の皆様の熱意を集結して、平和で持続可能な社会の実現を目指して、新しい時代に対応したユネスコ活動に取り組んで参る所存ですので、今後とも協会の活動に対しましてご理解ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

沼田ユネスコ協会

市内小中学校のＳＤＧｓ実践状況調査の概要

事務局長　大島　俊夫

沼田市内の小中学校にユネスコスクールはありませんが、多くの学校でＥＳＤを継続発展させる形で、環境教育、福祉教育など、ＳＤＧｓに関わる実践活動を行っております。そこで、昨年７月、ここ数年間を振り返って、特に力を入れているＳＤＧｓ／ＥＳＤに関わる教育実践事例を調査しました。

◎実践事例１　Ａ小学校「災害を知って自分にできることを考えよう」目標４・11　小学６年総合、防災学習　災害の状況や被害についての関心や理解を深め、現在・将来にわたって自分にできることは何かという防災･減災の心構えや実践力を育てていく。

令和２年度は噴火による災害やダムの役割についての理解を深めるために鬼押し出しと八ッ場ダムの現地学習を実施した。

◎実践事例２　Ｂ中学校「愛のくるくるリサイクルプロジェクト」目標12　ごみの減量化に取り組むとともに、段ボール・新聞紙・アルミ缶などの資源ごみを回収し、車いすの寄贈をしたり、草花を栽培し、近隣施設へ配布するなど、社会貢献の意識を高める。

◎実践事例３　Ｃ中学校「郷土料理を作ろう、地域の農業を知ろう」目標２　１年生家庭科　地域の生活研究グループをゲストティーチャーに、郷土の食材を使って、郷土料理を一緒に作り、会食をすることを通して地域の食文化に興味関心をもち、地域の農業の特色やその持続性についても考える。

◎その他の実践事例の表題

Ｄ「やさしさの輪を広げよう」
Ｅ「特別支援学校との交流」
Ｆ「城堀川清掃ボランティア」
Ｇ「平和学習」
Ｈ「吹割の滝遊歩道の散策とごみ拾い活動」
Ｉ「尾瀬のすばらしさを発信しよう」など

◎まとめと課題

どの学校でもＳＤＧｓに関わる多くの実践を行っていることがわかります。今後とも、ユネスコ協会としてこれらの実践を深め、ユネスコスクール登録に向けて、活動を支援していければと思います。

館林ユネスコ協会

ＳＤＧｓに取り組む

会長　大野　泰弘

館林ユネスコ協会の今年度のテーマは「ＳＤＧｓに取り組む（まず学びから）」です。まずは自分たちが勉強しようと、８月６日に日本ユネスコ協会連盟の事業部 関口広隆部長さんに講師をお願いして、「ＳＤＧｓとユネスコスクールについて」と題しオンラインで勉強会を開催しました。その際、市内の小中学校にも積極的に参加をお願いに行き、小学校５校の校長先生や教諭の方が出席してくれました。

講義ではＳＤＧｓやユネスコスクールの活動事例なども紹介していただき、たいへん勉強になりました。終了後、出席していただいた先生方と少々意見交換ができましたが、私がユネスコスクールについて感想を尋ねた返答で、１人の先生から「ユネスコ協会は学校や子供たちにどんなことを提供できるのか。」と質問をされ困ってしまいました。「今後の課題といたします。」と答えるだけの自分の認識不足や力不足を感じてしまいました。私は学校側が自発的にユネスコスクールに関心を抱き、先生が取り組んでくれることを期待していただけでしたから。これからは認識を改めなければなりません。

その後の関東ブロック栃木大会でもＳＤＧｓの分科会を拝聴させていただき、少しずつではありますが、方向を見いだせていければと考えております。また、小中学校の先生方をお誘いしての勉強会はこれからも続けていくつもりです。それ以上に私自身が勉強をしないと駄目ですねという状況でございます。

ＳＤＧｓはとても大切なことですが、広範囲な項目となっており、どれに取り組むのか迷いますし、逆に考えればユネスコ協会の活動は、間接的には概ねＳＤＧｓのどれかに当てはまるともいうことができます。ただ、ユネスコスクールの設置をお願いしても具体性がないので、私たちの活動自体が具体的に何をするのか絞っていかなければならないと思っています。まだ､その一歩を踏み出したばかりです。

安中碓氷ユネスコ協会

ＥＳＤを通じてＳＤＧｓをいかに加速するか！

会長　矢野　　薫

2019年７月19日、当協会ができることからはじめようとＳＤＧｓ宣言をしてから２年半が経過しました。感染対策や自粛による非日常の生活が続き、これまで非日常だった生活が日常となりつつある中、

ＳＤＧｓは多くの人々に理解され、世界が大きく動き出していると感じるようになりました。そのような中で、ＥＳＤ（持続可能な社会づくりの担い手をはぐくむ教育）を通じたＳＤＧｓに向けた取組を一層加速させるため、テーマを「ＳＤＧｓの達成に向けて2030年までに私ができること・やらなければならないこと！」として市内の中高生の皆さんからメッセージを寄稿していただき、そのメッセージを11月～12月（松井田支所）と12月～１月（安中市役所）にユネスコ活動写真展で展示し市民の皆さんに向けて発信しました。さらに、２月、当協会機関紙「安中碓氷ユネスコ便り」に掲載し市内全戸に配布しました。９月、メッセージの依頼に役員が市内の全中学校、高等学校に足を運びました。そして、すべての中学校、高等学校の校長先生方がＳＤＧｓ推進に向けて強い意欲を示されたことに感銘を受けるとともに、中高生のメッセージ寄稿にご理解とご協力をいただきました。日ごろのＥＳＤを通じたＳＤＧｓの取組に敬意を表すとともに、当協会の活動にご理解とご協力を賜りますことに心より感謝申し上げます。

自治体のＳＤＧｓの達成に向けた取組も、目覚ましい変容が見られた１年でした。10月８日には、安中市長とのＳＤＧｓをテーマとした対談が実現しました。その中で、自治体の長である安中市長　茂木英子氏がリーダーシップを発揮し、令和３年３月に策定された第２期安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略にも、ＳＤＧｓとの関係を明確にし、地域課題解決のための施策にＳＤＧｓのゴールナンバーと目標達成のための指標、基準値、目標値（令和８年度）が位置づけられました。（安中市長との対談については、P10, 11をご覧ください。）

世界寺子屋運動では、安中市民からいただいた手作りマスクを日本ユネスコ協会連盟の職員が、７月26日、世界寺子屋運動のカンボジアの現場へ持参して、現地スタッフや生徒の皆さんへお渡ししました。また、市内の重度心身障害児者施設にもお届けしました。

藤岡地方ユネスコ協会

「藤岡地方ユネスコ少年少女合唱団」

会長　岸　　正博

合唱団規約（目的）で「本団は、少年少女に音楽活動を通してより豊かな心を育むとともに、演奏活動などにより、国際理解・交流を図り、ユネスコ憲章の精神の体得と世界平和の実現に進んで貢献しようとする心を養う」としている。

第 18 回　定期演奏会（みかぼみらい館）

1998年８月、「完全学校週５日制への対応」として発足。保護者がユネスコ会員となり活動を進めている。

主な活動は、定期演奏会や各地でのイベントに出演。明治30年代に作られた「養蚕唱歌」の演奏を行い、世界文化遺産「高山社跡」などの絹産業遺産の啓発活動も行っている。2000年から始まった藤岡ロータリークラブ主催、「群馬県合唱フェステイバル」に毎年参加。昨年今年とコロナ禍により中止しているが、同合唱フェステイバルは、県内最高の合唱団の歌声が聞ける場として再開が待たれる。

昨年10月、合唱団から「ユネスコ合唱アカデミー」が新たに発足し、本年７月、全日本合唱コンクール群馬県大会に初参加した。中学生が主体の合唱団であるが「大学職場一般の部」の参加となり、大人の合唱団の中、銀賞を受賞した。

コロナ下の練習は、練習会場の確保や団員の時間調整、感染防止対策など苦労があったが、大会当日、審査員から「参加した中で歌える喜びをダイレクトに表出されていて感動した」「特にジュニアの皆様からいただいた感動は私の宝物となった」などのコメントをいただく。指導者４名のもと、学校の音楽活動と連携した地域の音楽文化活動を目指している。

中之条ユネスコ協会

「研修視察」白久保のお茶講体験補筆

会長　嶌村　真也

会員拡充と世代交代の取り組みの矢先での新型コロナ禍による活動自粛２年目となるが、本会としては、「事業報告」にも記した県ユ連「研修視察」の主管事業が、辛うじて実施できた今年度の主要事業

といえる。

そこで、「事業報告」を補筆する形で記す。

現在、民俗行事のお茶講は中之条町五反田字白久保のみに伝わるが、かつては吾妻郡内各所にみられた。平成元年時点では、存続するお茶講は長野原町堀之内と吾妻町丑ヶ渕の２ヶ所、廃絶が３ヶ所である。

白久保のお茶講が貴重なのは、お茶講の連名帳に相当する寛政11年の「御茶香覚帳」が歴史資料として残されており、当時のお茶講と現存するお茶講の形式がほぼ踏襲されていること、また、中世の武家の間で流行った「闘茶」の形式にも共通している点である。

北関東の一部山間地域に中世の闘茶の形式を残す民間習俗が伝承されている、その由来は不明であるが、手がかりとなりそうな周辺事例は出てきている。

中之条町青山地区は、南北朝時代に公家花山院師重が後醍醐天皇の孫の伊良親王と共に上州に入り、青山郷に居を構えて青山姓を名乗ったゆかりの地とされ、その館址も推定されている。青山氏はその後江戸に移り、現在の東京都港区青山の地名の由来となったが、その青山姓の祖であり家格の高い公家の青山師重が伝えた可能性が高いと推測されている。

1990年、中世の闘茶の形式をよく残す民俗文化として国の重要無形民俗文化財に指定された。

現在、「白久保お茶講保存会」が、昭和61年建築の「お茶講の家」を会場にその普及啓発に努めている。貴重な未来遺産としてその継承を注視していきたい。

大泉ユネスコ協会

コロナ禍の中でできること

副会長　清水　喜義

昨年度から続く新型コロナ禍の中、本年も各協会ともに、例年の年中行事や各種啓発活動について中止、また延期等の措置を余儀なくされる状況が続いてきているかと思います。

このような、ややもすると前向きな気持ちが萎え、消極的な方向に向かいがちな状況の中で、例えば本年度の関東ブロック・ユネスコ活動研究会in栃木のように、従来の実施内容や方法について検討を重ね、ズーム等を活用してのオンライン開催という形をとるなど、安全の確保に努めながら、試行錯誤の中で行事や活動を実施された方々、また協会に対し、衷心より敬意を表させていただきたいと思います。

当協会でも昨年同様、年度初めの総会を中止し、会員に議案書の送付をさせていただくことでスタートを切りました。そして相変わらずのこのような状況下で私達に今できることは何か、各種行事や啓発活動について、どのような形や方法なら実施可能なのか、そして実施する場合の留意点や効果等について考えてまいりました。

本年も８月に実施予定であった国際理解バスに参加が叶わなかった町内中学校二年生には、各クラスや図書館に国際理解関係の冊子を配布させていただき、国際理解学習で役立てていただきました。また十月に実施した中学生向けの高校生意見発表会は、昨年度に引き続き、中学校側の協力を得て、五人の高校生に放送室から校内テレビ放送を通して順次話しかけてもらい、生徒は各教室の自分の席で視聴してもらう形としました。

そして毎年多くの町民や事業所の方々にご協力いただいている「書きそんじハガキ回収キャンペーン」、加えて年明け一月に予定をしている「私の撮ったユネスコ世界遺産写真展」、及び「ユネスコ協会便り」の発行もこのような状況の中だからこその思いを込めて、工夫を凝らしながら進めていきたいと思っています。

意見発表の５名の高校生

国際ソロプチミスト前橋

コロナ禍での新しい活動の形

会長　布川　敏恵

コロナの影響もあり、ZOOM会議を会員全体で勉強しながら、例会を続けてまいりました。

一時例会もお休みしなければいけない時期もあり、会員との意思疎通にＴＥＬ・Ｆａｘ・ライングループを活用し、何んとか乗り切ってまいりました。

東リジョンの研修会・東リジョン各委員会の研修会にも、オンライン対応にて積極的に参加させていただく事ができました。

ＳＩ前橋の活動も制限され、高校生対象のユースフォーラムも前橋から２校参加にて、東京大学でのオンライン参加となり、養護施設への高校生と合同

での参加も毎年恒例でしたので、寂しい限りでしたが慰問品のみのお届けとなりました。

また、今年は国際ソロプチミストにとりまして100周年にあたります。100周年を記念するイベントが２日間にわたり、世界中を巻き込みオンラインで開催されました。

ソロプチミストから賞を送られた方のメッセージ･ソロプチミストの歴史･世界中の会員からのメッセージが届き、モチベーションが落ちて行きそうな中、改めて、私たちの活動の意義を確認させていただく良い機会となりました。

私共国際ソロプチミスト前橋も今年で45周年を迎えます。

前を見据えこの活動が長く続けられますことを、会員一同心に刻みたいと思います。

今後の県ユ連主催事業

第７回群馬県ユネスコスクール研修会
（兼第10回藤岡市ユネスコスクール研修会）
主管：藤岡地方ユネスコ協会
日時：2022年１月27日（木）13：30～16：30
会場：藤岡市総合学習センター教育庁舎３階
第２、３会議室
方式：Zoomによるオンラインと対面の併用

令和３年度世界遺産研修会in伊勢崎
主管：伊勢崎ユネスコ協会
日時：2022年２月26日（土）13：00～15：30
会場：伊勢崎市境島村公民館

特集－ＳＤＧｓ

安中市のＳＤＧｓ推進に向けて
－茂木英子市長のインタビューから－
安中碓氷ユネスコ協会　会長　矢野　　薫

２年近く続くコロナ禍でＥＳＤを通じたＳＤＧｓの達成に向けた取組みをいかに加速するかが、今年度最大の課題だったと言えます。今回は、安中市の自治体としてのＳＤＧｓ推進状況について、10月８日安中市長の茂木英子氏にインタビューをしたので紹介します。

矢野：市長としてのＳＤＧｓの推進に関する考えや思いをお聞かせください。

茂木市長：「すべての人が、それぞれの立場から共通した目標の達成を目指す」というＳＤＧｓの考え方は、安中市のまちづくりテーマの「市民総働」とも方向性が合致します。世界の共通言語であるＳＤＧｓを通じて、市に関係するすべての人々と連携し、地域の課題を解決していきたいと考えています。最近、世界各地で地球温暖化が原因と思われる自然災害が頻発しています。地球は将来の子どもたちのために、私たちが預かっているものです。この地球を将来の子どもたちのために残していくことは、私

祝　新井正雄氏
社会教育功労者表彰受賞

令和３年11月19日（金）令和３年度群馬県社会教育研究大会において、現群馬県ユネスコ連絡協議会監事、太田ユネスコ協会副会長新井正雄氏が「令和３年度　社会教育功労者群馬県教育委員会表彰」を授与されました。大会は200名を超える参加者を結んでオンラインで行われ、受賞者が読み上げられました。なお、表彰状の授与は各所属団体に委ねられました。

行政とともに　－安中碓氷ユネスコ協会の取組み－

たちの極めて重要な責務だと考えています。

矢野：安中市のＳＤＧｓに向けた取組にはどのようなものがありますか？

茂木市長:①市民向けの啓発として、市の広報誌で、「誰一人取り残さない　やわらかいＳＤＧｓ」を特集し、市民や学校の取組を紹介するとともに、本市出身のイラストレーターにご協力いただいたオリジナルエコバッグを全世帯に配布しました。②職員研修として、「ＳＤＧｓの研修」を実施し、管理職を中心に多くの職員に、ＳＤＧｓはどのようなものか、自治体がＳＤＧｓに取り組む意義などを学びました。③令和３年３月策定の第２期安中市まち・ひと・しごと創生総合戦略で、施策ごとにＳＤＧｓのゴールを示すとともに、成果指標として地方創生ＳＤＧｓのローカル指標を取り入れました。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すＳＤＧｓの多様な視点を地方創生に織り込むことで、地方創生の一層の充実、深化を図ります。④令和３年７月には、「安中市のより良い未来のために、職員が率先してＳＤＧｓの理念を意識し、行動するよう」市職員に向けて訓示をしました。⑤市職員からアイデアを募集し、業務での紙の削減、資源リサイクルの徹底、来庁者への積極的な声掛けなど、集まったアイデアを「身近なことから始めるＳＤＧｓ取組集」にまとめ、職員一人一人がＳＤＧｓの推進に向け取組を始めています。⑥市長がＳＤＧｓバッジを着用し、市職員の名札にＳＤＧｓロゴマークを表示することで、職員の自覚や市民に向けた啓発に取り組んでいます。⑦ＬＧＢＴ等の性的マイノリティの方に配慮するため各種申請書等における性別記載欄を全庁で見直しています。

以上のように、地域課題解決のために、自治体の業務自体でＳＤＧｓを推進していくことは勿論ですが、市民に向けた啓発として様々な活動を、継続的に展開してまいりますので今後とも、ご理解ご協力をお願いいたします。

矢野：安中市が、自治体としてＳＤＧｓを推進する上での課題は何ですか？

茂木市長：施策を評価し、改善していくことです。地方創生総合戦略にＳＤＧｓを関連付けていますが、１年ごとに施策の成果を検証し改善していくことが大切です。ＳＤＧｓ達成に向けた各施策について、繰り返し効果を検証し、次年度の施策に生かすＰＤＣＡのサイクルでＳＤＧｓの達成に導いていきます。

矢野：今後のＳＤＧｓ推進に向けて自治体の長としてのお気持ちを聞かせてください。

茂木市長:ＳＤＧｓのゴール17の全てが重要ですが、とりわけゴール13（気候変動に具体的な対策を）について、地球温暖化が原因と考えられる、自然災害が世界中で頻発していることを危惧しています。温室効果ガスを削減し地球温暖化を食い止めるために、ユネスコ協会や市民の皆様とともにＳＤＧｓの推進に取り組んでいく所存でございますのでご理解とご協力をお願い申し上げます。

茂木市長のＳＤＧｓに関する熱い思いを伺っている間に、予定の時間はあっという間に過ぎてしまいました。お忙しい中、当安中碓氷ユネスコ協会のために時間を割いていただいて誠にありがとうございました。最後に、茂木市長のリーダーシップのもとに、安中市のＳＤＧｓが力強く推進されていることをご報告するとともに、茂木市長の熱い思いに感服する対談であったことをお伝えします。

祝　富岡ユネスコ協会 創立50周年おめでとうございます

富岡ユネスコ協会の50周年記念式典が令和３年11月20日（土）14：00より、新しくなった富岡製糸場西置繭所にて厳かに行われました。

あ と が き

私事ですが、2021年12月１日付で日本ユネスコ国内委員会委員に任命されました。文化・コミュニケーション小委員会の所属となります。７月に候補の話があり、９月内々定、11月の閣議を持って承認され、12月１日付にて末松信介文部科学大臣より辞令が発令されました。第六代県ユ連会長中村宏氏が1996年に任期３年を終えられて以来25年ぶりに群馬県より選出されたものです。

誠に経験も浅く若輩者ではございますが、中央と県との懸け橋になれますよう頑張る所存です。皆様のご指導ご鞭撻を賜りたく、どうぞよろしくお願いいたします。

（編集委員長　松本千恵子）

編集・発行
群馬県ユネスコ連絡協議会
発行責任者　樋　口　克　己
群馬県前橋市大手町１－１－１
群馬県教育委員会生涯学習課内
電話　027-226-4661

2022年 新年賀詞ご芳名

明けましておめでとうございます

群馬県ユネスコ連絡協議会
会　長　樋口　克己
副会長　北川紘一郎
副会長　岸　正博
事務局長　松本千恵子
他役員・理事一同

桐生ユネスコ協会
名誉会長　北川紘一郎
会　長　田中　一枝
副会長　下山　進平
副会長　前原　勝良
副会長兼事務局長
高柳　光雄
会　計　柿沼　直子

太田ユネスコ協会
会　長　中村　利光
副会長　馬場　敏生
副会長　城代　貴浩
副会長　小嶋　恵子
副会長　薬丸　潔
副会長　新井　正雄
副会長　金谷　光明
副会長兼事務局長
栗田　政子

前橋ユネスコ協会
顧　問　阿久澤和夫
会　長　矢島　俊夫
副会長　須藤　英雄
副会長　福島　輝巳
副会長　関根　長之
副会長　高島　美幸
副会長　宮川　孝子
事務局長　樺澤富美男

伊勢崎ユネスコ協会
会　長　設楽　孝吉
副会長　矢内三四夘
副会長　横澤　克明
副会長　齋藤　文江
副会長　坂田　勝美

高崎ユネスコ協会
会　長　串田　昭光
副会長　上田　一美
副会長　岩井　聖子
副会長　渡部　孝男
副会長兼事務局長
山﨑　貞幸

富岡ユネスコ協会
会　長　矢野　英司
事務局長　島﨑　佳彦

沼田ユネスコ協会
名誉会長　小林　照夫
会　長　石田　宇平
副会長　宇敷　和也
副会長　矢嶋　照久
副会長　森田　経代
副会長　村澤　玲子
副会長　原沢　直久
副会長　小野瀬和男
事務局長　大島　俊夫

館林ユネスコ協会
顧　問　蛭間　享一
会　長　大野　泰弘
副会長　奥野　榮通
副会長　小林　博子
副会長　遠藤　和昭
副会長　小林　悟
副会長　荘司由利恵

安中碓氷ユネスコ協会
会　長　矢野　薫
副会長　矢野　篤
副会長　猿谷　憲
副会長　瀧田　和則
副会長　儘田　尚実
副会長　瀬山　善郎
副会長　小林　克行
事務局長　小日向和博

藤岡地方ユネスコ協会
会　長　岸　正博
副会長　依田　治雄
副会長　新井　松江
副会長　平居　利朗
副会長　西澤　恭順
副会長　新井　秀一
事務局長　岩﨑　哲
事務局次長　木村　順子

中之条ユネスコ協会
会　長　嶌村　真也
副会長　剣持　千秋
副会長　綿貫　光子

大泉ユネスコ協会
会　長　寺西　弘之
副会長　清水　喜義
副会長　槻岡　則夫
副会長　石井　克己

国際ソロプチミスト前橋
会　長　布川　敏恵
理　事　内田　初枝
トレジャラー
森田　光子

群馬県ユネスコ連絡協議会　加盟団体
桐生ユネスコ協会　太田ユネスコ協会　前橋ユネスコ協会　伊勢崎ユネスコ協会
高崎ユネスコ協会　富岡ユネスコ協会　沼田ユネスコ協会　館林ユネスコ協会
安中碓氷ユネスコ協会　藤岡地方ユネスコ協会　中之条ユネスコ協会
大泉ユネスコ協会　国際ソロプチミスト前橋